

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079100147
法人名	有限会社 弘洋
事業所名	グループホーム 青空
所在地	福岡県みやま市高田町海津1461番地2 (電話) 0944-62-6151

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年11月29日	評価確定日	平成20年1月16日

【情報提供票より】 (平成19年10月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 6月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 8人, 非常勤 0人, 常勤換算 0人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	42,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成19年10月30日現在)

利用者人数	8名	男性	0名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 87歳	最低	77歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	くさかべまき内科クリニック
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は自然に恵まれた長閑な町並みにあり、周囲の環境に溶け込み、地域住民としての穏やかな生活が伺える。事業所独自の具体的な理念を職員は理解し、リズム体操・フィンガースポーツ・温熱療法で利用者の心身の自己資源開発を図っている。刺し子・ちぎり絵・物語を紙芝居に取組む利用者など個別性があり、一日の生活リズムを整えて活かす安定したケアがあり、利用者の明るい元気な笑顔を日々の安眠につなげている。家族の方々など大勢で誕生会が行われる等、一人ひとりの喜び・楽しみ・尊厳・自立を目指し、ケアの質の向上を全職員が熱意を持って取組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題については、改善計画シートを作成し、緊急時の手当についての研修実施、衛生管理点検表の作成、確実な申し送り・情報伝達について確認サインの徹底等、改善に努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員は、評価の意義・目的を理解している。自己評価は、全職員で項目毎に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的に運営推進会議を開催している。前回の運営推進会議での検討事項や懸案事項についてその経過を報告し、委員から意見をもらい、共用空間にイベント時の写真を掲示する等、サービス向上に活かしている。また、会議録を作成し、その内容は事業所便りと共に家族等へ送付している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>運営推進会議時や家族来訪時に、意見等を聴くよう声かけに努めている。事業所主催の夏祭りの運営方法について等、家族等の要望を運営に反映させている。苦情・意見箱を設置したが、より意見等が聴けるように自由帖に変更している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣へ招待状を出し、地元の人々と利用者が共にお茶を楽しんだり、夏祭りや草取り等の地域行事・活動に参加している。地域の小学校全学年と定期的に交流会を続け、また、近隣の独り暮らしの人の相談等にも関わっている。</p>

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、地域と関わりながら暮らし続ける事を支えていく事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、全職員で理念を復唱し、初心を忘れず、利用者と向きあえるよう心に留めて、家庭の延長であるホッとするような場でありたいと、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣へ招待状を出し、地元の人々と利用者が共にお茶を楽しんだり、夏祭りや草取り等の地域行事・活動に参加している。地域の小学校全学年と定期的に交流会を続け、また、近隣の独り暮らしの人の相談等にも関わっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員は、評価の意義・目的を理解している。自己評価は、全職員で項目毎に取り組んでいる。前回評価での改善課題については、改善計画シートを作成し、緊急時の手当についての研修実施、衛生管理点検表の作成、確実な申し送り・情報伝達について確認サインの徹底等、改善に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催している。前回の運営推進会議での検討事項や懸案事項についてその経過を報告し、委員から意見をもらい、共用空間にイベント時の写真を掲示する等、サービス向上に活かしている。また、会議録を作成し、その内容は事業所便りと共に家族等へ送付している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	書類の提出時等を利用しながら、分からない事を聞いたり相談し、行政と連携を図っている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度のパンフレットを整備し、全職員が研修に参加し制度に関して周知に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、事業所便りを発行し、家族来訪時にも暮らしぶりや健康状況等を報告し、急変時は電話連絡を密にしている。金銭管理については、月1回、領収書原本を家族等へ渡し、コピーを個別ファイルに綴じ、家族等のサインをもらっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時や家族来訪時に、意見等を聴くよう声かけに努めている。事業所主催の夏祭りの運営方法について等、家族等の要望を運営に反映させている。苦情・意見箱を設置したが、より意見等が聴けるように自由帖に変更している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、利用者が馴染みの職員による支援を受けられるよう離職を必要最小限に抑える努力をしている。職員の離職については、引継ぎ期間を十分に設けている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集・採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。事業所で働く職員については、それぞれの得意分野を伸ばして、生き生きと勤務できるよう勤務時間等について話し合い、また意見を自由に出し合える雰囲気を作る等、社会参加や自己実現の権利が保証されるよう配慮している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権に関するテキストを整備し、管理者・職員共に研修に参加している。一部職員が受講した場合は伝達研修をし、職員会議の議題にして、誠実に対応する心がけ等、人権教育として取り組んでいる。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は、職員を段階に応じて内外の研修を受ける機会の確保に努め、日常的に学ぶ事を推進している。研修内容を報告し、全職員で共有している。働きながら資格を得られるよう協力体制を構築している。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域のグループホーム協議会に加入し、2ヶ月に1回、会議等を実施している。事業所主催の夏祭り等、行事開催時に声をかけあい、他事業所と連携を図り、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に見学や自宅訪問等を行い、納得した上で、本人と家族が事業所で一緒に過ごしている。場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	料理、裁縫、畑仕事等、利用者の得意分野を發揮してもらいながら、共に過ごし学び支えあう関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	職員は日々の関わりの中で、利用者に声をかけ、利用者の言葉や表情行動から思いや意向等の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者は、家族から情報を得て、また生活歴から本人の立場に立って検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	認知症のアセスメントシートを活用している。本人・家族から意見等を得て、全職員の意見やアイデアを反映した一人ひとり具体的な介護計画を作成している。作成した介護計画を家族へ説明し、同意のサインをもらっている。		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	1ヶ月・3ヶ月・6ヶ月の定期見直しをして、本人・家族の意向や職員の気づきを取り入れている。状態変化時には随時見直しをし、家族へ連絡して、現状に即した介護計画を立てている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	通院の送迎には、家族または希望に応じて職員が付き添う等、個別に柔軟に対応している。利用者が入院際は、管理者・職員が見舞いに行き、医療機関や家族との連携を図り、早期退院に向けて取り組んでいる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、本人・家族の希望するかかりつけ医の往診を支援している。事業所は、24時間、医療機関と連携を図り、適切な医療を受けられるよう支援し、希望する利用者には、訪問看護サービスを導入している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針がある。入居時に本人や家族等の希望や意見を聴取し、書面化している。段階を踏み、家族・主治医・職員で話し合い、対応等について関係者全員が共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、職員が利用者に対する礼儀やさり気ない対応を意識化するよう日々確認し、利用者のプライバシー確保に取り組んでいる。また、他の家族や外来者に対して、職員が本人のプライバシーに関して話さないことを徹底している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切にし、レクリエーション等は自由参加している。散歩や買い物等、その人の体調や希望等に配慮しながら、一人ひとりの気持ちを大切に支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、一緒に食事の準備から片付けをし、同じものを同じテーブルで食べている。調査当日は、誕生会を開催し、家族・行政・その他の参加があり、会話を楽しみながら和やかな食事風景であった。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな設定はあるが、利用者の希望等にあわせて毎日入浴できるように支援している。入浴拒否する場合は、時間や対応する職員を変える等し、入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の生活歴や力を把握し、絵のスケッチ・裁縫・洗濯たたみ・掃除・調理・配膳・片付け・カラオケ・カレンダーの日めくり等、利用者の出来る事、得意な事、楽しみごとや気晴らしの支援に努めている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や利用者の体調や希望に応じて、近隣を毎日散歩し、週1回は買い物に出かけている。2ヶ月に1回、桜・ひまわり・藤・コスモス・紅葉等、季節の花見のドライブをしている。年1回、温泉や外食を楽しむ等、戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関は施錠していない。職員は利用者一人ひとりの習慣等を把握し、職員同士の声かけや見守りで対応している。夜間のみ、家族の同意を得て、転倒等の危険防止察知の為、一部居室にセンサーを設置している。近隣へ見守りや声かけの協力をお願いしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、職員は熟知している。月1回、事業所独自で避難訓練をし、年1回、消防署の協力を得て災害時の訓練を実施している。消防団に声かけをし、飲料水を準備している。	○	非常用備品も準備をしてほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量及び水分摂取量の全利用者分を記録している。一人ひとりの状態等にあわせて食事量を配膳し、残菜は少ない。献立は、職員が利用者の嗜好や栄養に配慮して作成し、年1回、かかりつけ医師のアドバイスを得ている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者が好む写真を飾ったり、季節感のある花やちぎり絵をさり気なく飾り、家庭的雰囲気に配慮している。隣家と接する窓のカーテンは明るく、テレビの音量や職員の声は大きすぎず、共用空間は居心地良く過ごせるよう工夫している。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室は、利用者の使い慣れた馴染みのソファや家族写真・人形・植木鉢・ちぎり絵等があり、一人ひとりの個性が伺える居心地のよく過ごせるような工夫をしている。</p>		

※ は、重点項目。